

## 授業概要

授業では、「中国を知らずして、日本の繁栄はない」というキーワードを用いる。中国を中心としたアジア諸国の発展の歩みを比較・整理し、アジア諸国の経済状況を把握する。

戦後の高度成長を経て、日本はアジア（東アジアとASEAN）をリードしたが、20世紀の終わりから長期停滞に陥る。一方、中国を筆頭にアジア諸国・地域は躍進し、21世紀は「アジアの世紀」とされる。「フルセットから国際分業へ」「モジュラー化」といった経済の地殻変動により、日本はなぜ存在感を低下させ、他のアジア諸国は躍進したのか。グローバル・バリューチェーンなど鍵となる概念を丁寧に解説し、日本の活路を示す。

## 授業計画

第 1 回	イントロダクション・本授業の内容、対象国・地域の概要
第 2 回	アジアの経済成長とそのメカニズムについて講義する。
第 3 回	アジアの人口と労働を講義する。
第 4 回	中国の経済発展と所得格差について講義する。
第 5 回	中国の経済発展と環境問題について講義する。
第 6 回	アジアの食糧問題について講義する。
第 7 回	アジアのエネルギー問題について講義する。
第 8 回	アジアの産業構造について講義する。
第 9 回	アジアの都市化と都市問題について講義する。
第 10 回	中国の都市化と都市問題について講義する。
第 11 回	アジア経済の課題①を講義する。
第 12 回	アジア経済の課題②を講義する。
第 13 回	アジア経済の課題③を講義する。
第 14 回	日本の強みと課題について講義する。
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

## 到達目標

この講義では、世界経済とりわけ日本経済にとって重要性が高まる中国経済の将来を個々人が考える上で、基礎となる知識の習得を目指す。日本の私たちの生活は、様々な形でアジアの人々の生産活動や労働、生活と結びついている。授業を通じて、特に中国とアジア諸国の経済のダイナミクスやその歴史を理解すると同時に、現代のアジアが直面する様々な課題や、日本とアジアの関係について考えてほしいと思っている。

## 履修上の注意

講義形式で行う（パワーポイントを使用）。授業中に課題を出すことがある。新聞やテレビのニュースで中国に関する情報に対して常に注意を払うこと。毎回の授業で、その週に中国で起きた出来事についてコメントや質問を行う。なお、授業中の私語は厳禁する。

## 予習・復習

必要に応じて指示する。毎回、授業の理解度を確認するリアクションペーパーの提出がある。

## 評価方法

出席状況、授業中に課す感想・質問表や課題、及び期末試験を総合して評価する。筆記試験 70%、平常点 20%、受講態度 10%。

## テキスト

毎回配布する資料に沿って講義を進める。